

★特別な医療を受けている（在宅酸素を使用している方）

	項目
医療用品 器 医療機	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予備物品の確保や収納、共有ルートの確保 ・ 携帯用酸素ボンベは予備を1本用意 ・ 人工呼吸器（アンビューバック，呼吸器回路） ・ 延長チューブ、蒸留水、カニュラ <p>①日常的に電気が必要な療養者であることを電力会社に伝達しておく</p> <p>②消防署にも在宅酸素療法を実施していることを予め伝えておき 災害時の対応を了解してもらう</p> <p>③酸素供給業者への連絡方法の確認</p> <p>④普段から火気に注意し、震災時に火の気を切ることの訓練</p> <p>⑤携帯用酸素ボンベへ切り替えることの訓練</p>
停電対策	<ul style="list-style-type: none"> ●停電になった時を想定 ・ アンビューバックの操作ができる人の確認と協力体制の確認 <p>協力体制の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代替物品を使えるように日頃から訓練しておく ・ 予備物品を準備し取り出せるところに保管しておく ・ 緊急連絡先、入院可能病院のリストを作成しておく ・ 医療機器業者への連絡方法を確認しておく ・ 発電機、バッテリーを用意する
人的資源	<p>①避難のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 搬送のための人手の確保（最低一人は呼吸ケアができる人が必要） <p>②情報公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の病気や置かれている状況を近隣の人や地域自主防災会に申し出て、緊急時搬送が必要な人のリストに入れてもらう <p>③緊急時にコミュニケーションが取れるように準備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字盤の練習　文字盤を読める人を増やす <p>④災害時安否確認する人を決めておく</p>
避難	<p>パニックになると酸素消費量が増えるので、できるだけ落ち着いて腹式呼吸を行って行動する訓練をしておく</p>
災害直後	<p>①療養者の身体状況</p> <p>②低酸素状態（呼吸、意識など）の観察</p> <p>③酸素供給器が使用できない時⇒携帯用ボンベへ切り替え</p> <p>④近隣支援者への呼びかけ　可能な場合は避難所へ避難</p> <p>⑤酸素供給業者、医療関係、訪問看護ステーションへの連絡</p>
